

ダルニーフォーラム

第二十一号

2016年8月

www.edfthai.org/jp

=2016年にダルニー奨学金をもらえた子どもたち=

奨学金は夢を実現するための一歩

2016年度はタイの子どもたちへの教育機会提供支援に関し、皆様より様々な面で大変お世話になり、どうもありがとうございました。募金活動の実績ですが、2016年度は7,129人(昨年度7,628人)の学生が奨学金の提供を受けることができました。そのうちのEタイプという金額を指定しない奨学金と募金箱へのご寄付からは125人(昨年度200人)の子どもたちに奨学金を提供することができました。

EDFでは2016年7月に、各対象学校への奨学金の振込みを完了しました。奨学生証書などは今回同封しますので、写真で自分の支援しておられる子どもたちの成長ぶりをご覧ください。尚、下記は、今回中学校1年生になって奨学金がもらえた4人の話と奨学金が彼らにとってどのように大切なものなのかのご紹介・ご報告です。



チョークシリ・ウアープウアン(男)
ナーナムチュム校、ウドンターニー県

「祖父母と第2人と暮らしています。両親は別の県に出稼ぎに行っており、めったに会う機会がありません。稲作の時期が終わった時に、他には仕事がないからお米を買うために祖父母は池で漁網をしなければなりません。魚を取れない日はその日の収入がないため、食事も出来なくなります。私は背が低いですが強くなって、将来は国に貢献できる警察官

か軍人になりたいです。私の夢は本当に叶えるかわかりませんが、頂いた奨学金は私の夢を実現するために一歩を踏み出せたと感じます。勉強のために大事に使わせていただくことを約束します」



**パサコーン・ブンヤロット(男)バーンノン
プロング校、チャイヤブーム県**

「今はしっかり勉強して将来は国のサッカー選手になりたいです。その日が来るまで今の勉強を一生懸命頑張ります。私は伯母と弟と暮らしています。両親は離婚し、それぞれ別のところにいます。僅かなお金でも休みの日にキャッサバの畑で仕事をします。今回奨学金をもらえる学生の一人に選んでくれた先生

に深く感謝します。勉強のために使った残りの奨学金は、将来の夢を実現させるために貯めておきたいと思います」



**バンティター・アナカム(女)チュムチョンドンム
アンカイ校、サコンナコーン県**

「生まれてから父親の顔を一度も見ただことない私は母親と暮らしてきました。でも、母親が再婚して別居になってからは、時々仕送りをしています。今はお婆さんともう一人の妹と3人で暮らしています。お婆さんは捨てられたペットボトルを集めて麻袋1杯くらいの量ができたら売ります。袋当たりの収入は100

バーツ程度です。お婆さんが疲れすぎないようには私ができるだけ全ての家事を手伝っています。お小遣いは5~15バーツもらっていますが、収入により何バーツももらえない日もあります。その日はちゃんと昼食が食べられないと分かっていますが、学校に行きたくなくなる気持ちにはなりません。怠け者になりたくないからです。将来はデザイナーになりたい、たくさん貯金ができたら行方不明の父親を探そうと思います。また、将来は今の私みたいに貧しい子どもたちを助けてあげたいです」



**ハタイラット・クリンブン(女)バーンブン
ランマカー校、チャイヤブーム県**

「家事をしたり、まだ小さい妹たちを着替えさせたりするために毎朝5時に起きなければなりません。一緒に暮らしている祖父母はキャッサバの畑で仕事をしていますが、収入が少ないので起きてから学校で食べるお弁当を用意して家庭の経費を節約しています。お婆さんは高血圧症で体調の悪い日は、学校に

行く日であっても通学をやめて面倒を見なければなりません。いただいた奨学金はどうしても必要な時だけに使います。残っていたら将来の勉強のために貯めておきます。将来は人の役に立てる看護婦になりたいです。最後に私のように貧しい家庭の子供へ奨学金の提供をしてくださった方々に深くお礼申し上げます」

以上奨学生たちの自己紹介の手紙から抜粋した内容を見ますと、皆は勉強を頑張って将来を明るくしたいという希望を強く持っています。学生の皆は、勉強をしたり友達と遊んだりできる最も幸せな場の学校へ通うのが大好きですが、家庭の事情で学校へ通えない日もあります。皆様からいただいた支援金は、貧困にあえぐこの子供たちが、それぞれの夢を実現するための大きなきっかけとなる、とても大切なものだと信じております。

2017年度として2017年5月31日まで募金をさせていただきます。引き続きご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

現在実施中の教育開発プロジェクトのご紹介

EDFは恵まれない子どものために中学校への就学支援事業を実施しているだけでなく、様々な企業・団体のご協力により、校内の健康促進事業やIT促進プログラムなど、恵まれない学生と学校に役立つ多彩な教育開発事業もタイ全国各地で推進しております。下記に紹介させていただくのは2016年度に実施したプロジェクトの一部ですが、これらのようなプロジェクトを通して昨2015年度一年間で792校と約140,000人の学生を支援してきました。

| 支援企業 | 事業名 | 実施場所 | 支援内容 |
|---|--|--------------------------|---|
| MP G11(Thailand) Co., Ltd. (石油関連企業) | Mubadala Petroleum Integrated Development (MPID) | タイ南部の ソクラー県 計81校 | 漁民の子どもたちに対する奨学金支援。各学校で伝統的地域文化の保護と手作り品の販売を支援。 |
| 在タイ米国大使館 | English Access Alumni Camp | タイ北部の チェンマイ県計3校 | 高校生を対象に、英語のスキルを向上させるため、諸活動を通して、英語ネイティブスピーカーと英語でコミュニケーションを取る機会を提供。 |
| Sino-Pacific Trading(Thailand) Co.,Ltd. (貿易会社) | Sino-Pacific 45th Anniversary Project | タイ中部の パトゥムターニー県計22校 | 学校に浄水器を寄贈、設置、中学に進学する学生の奨学金も提供。 |
| 独立行政法人国際交流基金 (ジャパンファウンデーション) | Internet Friendship Project | タイ東北部 と中部の学校計41校 | 日本とタイの中高生をインターネットにより結び付け、異文化交流、学習に機会を提供。 |
| Thai Health Promotion Foundation (タイ国健康促進機関) | Great Fruits Good Veggies | タイ中部、 東北部と南部の10県計147校 | 栄養不足を避けるため、学校と周りのコミュニティの人たちと共に様々な活動を通して、学生にタンパク質、野菜、果物をより多く食べさせるための健康推進事業の展開。 |
| TOMS Co., Ltd. (靴メーカー) | TOMS One for One | 東北部の ウボンラチャターニー県計300校 | 恵まれない子どもに対して、通学用の靴の寄贈。 |

私たちEDFは上記のような事業において、皆様からいただくご支援が子どもや学校に最大限有益に活用されるよう努めています。企業・団体としてCSR活動に就き、どのようなご質問、ご相談にも、喜んで、お応えさせていただきますので、お気軽にご連絡下さい。



TTK Logistics (Thailand) Co.,Ltd. から奨学生のご寄付



2016年6月17日、TTK Logistics (Thailand) Co.,Ltdの代表取締役社長の岩男史朗氏（右側から3人目）より200,000バーツをご寄付いただきました。この寄付金は100人の子ども達への奨学金として役立てられます。

Asia Herb Association Bangkok Co.,Ltd. が奨学金30,000バーツの御寄付



2016年5月26日、Asia Herb Association Bangkok Co.,Ltd.の最高経営責任者の加瀬由美子氏（左側から6人目）より、30,000バーツをご寄付いただきました。この寄付金は、中学1年生の5人への3年間継続奨学金として充当されます。

The Education for Development Foundation (EDF)

50, Kasetsart University Alumni Bldg., Phaholyothin Rd., Ladyao Jatujak, Bangkok 10900
Tel.0-2579-9209-11 (タイ語) 0-2942-8538 (日本語) Fax.0-2940-5266
Email: public@edfthai.org URL: www.edfthai.org/jp

日本でのお問い合わせ：一般財団法人 民際センター
〒162-0081 新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783
Email: info@minsai.org URL: www.minsai.org